

令和4年度京都府立峰山高等学校学校経営計画（スクールマネジメントプラン）（実施段階）

学校経営計画（中期経営目標）	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点（短期経営目標）
<p>○ 京都府北部の中核校として、伝統と誇りを継承しながら高い理想を求め続け、地域に信頼される学校づくりを推進する。</p> <p>○ 教育スローガン（校是）、教育方針、教育目標及び求める生徒像の具現化のため、全教職員が一体となって取り組む。</p> <p>○ 全教育活動を通して、生徒と教職員が共に成就感と感動を味わえる、明るくさわやかな学校づくりに努める。</p>	<p><b>【成果】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校評価アンケート、「子どもを入学させてよかったと思っている」、「入学してよかったと思っている」での高い肯定率</li> <li>・ホームページや学校便りの充実による保護者や地域の方々への教育活動の様子の効果的な発信</li> <li>・地域及び大学等の関係機関との連携によりいさなご探究（探究活動）が充実し、主体的な学びが充実した。</li> <li>・英語指導力向上事業の充実による英語4技能育成と希望進路の実現につながる英語力の育成</li> <li>・BYOD先行実施及びICT有効活用により個別最適化された学びの推進とコロナ禍における学びの保障を実現できた。</li> <li>・地元企業の連携・支援による機械創造科のデュアルシステム等の充実による工業教育の充実と近隣の小・中学校へのプログラミング出前授業による生徒の自己肯定感の醸成と特色ある専門学科づくりの進展</li> <li>・コロナ禍の厳しい状況においても、早い段階で就職希望者の内定率は100%を達成した。</li> <li>・遅刻者数、自主学习時間、授業満足度において目標値を達成できた。</li> <li>・BYODや携帯電話等持込みについて、ルールや情報モラルを守り、効果的に活用できた。</li> <li>・スクールカウンセラーの積極的な活用と情報共有による生徒支援の充実</li> <li>・毎朝の生徒による健康観察の呼びかけや校内美化に関する取組を通じた意識の向上</li> </ul> <p><b>【課題】</b></p> <p><b>【全体】</b> ①各領域の重点目標及び具体的方策の焦点化と目標値の検討</p> <p><b>【特色化事業】</b> ②コロナ禍における事業手法の工夫と社会貢献意識の醸成</p> <p>③大学等の教育機関連携とroots（京丹後市）を介した地域連携による事業促進</p> <p><b>【学習指導】</b> ④新しい学習指導要領に対応した指導・評価の充実</p> <p>⑤ICT機器を有効活用した教育の充実とBYOD活用の組織的で効果的な運用促進</p> <p>⑥探究的な学習の深化と主体的に学ぶ姿勢の育成のための組織的な取組の充実</p> <p><b>【生徒指導】</b> ⑦規範意識の醸成とICT機器の使用に関する情報モラルの育成</p> <p>⑧部活動加入率及び定着率の維持のための学習と課外活動の両立に向けた整備</p> <p><b>【進路指導】</b> ⑨分掌・学年部・教科等との連携による進路指導体制の更なる充実</p> <p>⑩進路指導部を中心とした安定した進路指導計画の確立</p> <p><b>【人権教育】</b> ⑪人権学習の効果的な実施と日常の指導における自尊感情の涵養</p> <p><b>【家庭・地域連携】</b> ⑫ホームページ及びチャットツールを活用した情報発信と保護者との情報共有手法の確立</p> <p>⑬学校運営協議会やPTAの支援に基づく家庭・地域との更なる連携</p> <p><b>【図書・情報活動】</b> ⑭新図書館の有効活用と言語活動の充実に向けた多角的な利用の推進</p> <p>⑮行事等でのICT機器の有効活用とセキュリティ体制の維持</p> <p><b>【健康・安全指導】</b> ⑯生徒保健委員による健康観察徹底及び美化意識向上の取組の充実</p> <p>⑰教職員のカウンセリングマインドの育成と組織的な教育相談体制の更なる充実</p> <p><b>【特色ある専門学科】</b> ⑱教育活動と進路実現の更なる充実による機械創造科の魅力の一層の向上</p> <p>⑲地元企業・諸団体との更なる連携強化（デュアルシステム・インターンシップの充実）</p>	<p>1 質の高い学力を定着させ希望進路の実現に繋げるとともにこれからの社会を生き抜いていくために必要な資質・能力を育成する。</p> <p>2 大学や地域との関係機関との連携を深めキャリア教育の充実を図るとともに、郷土を愛し地域社会へ貢献する態度を育成する。</p> <p>3 世界に貢献する高い志を持ち、グローバル化の進展に柔軟に対応できる人材を育成する。</p>

※評価は4段階とし、A～Dの記号で表記する。

A：十分達成できた B：ほぼ達成できた C：あまり達成できなかった D：ほとんど達成できなかった

評価領域	重点目標	具体的方策	評価		成果と課題
府立高校特色化事業「グローバルネットワーク京都」	学力向上（アカデミックミネ）	<ul style="list-style-type: none"> <li>各種コンテストへの参加や検定受検、「科学の教室」「人文科学の教室」への参加、高大連携事業への参加を促す。</li> <li>【コンテスト参加、検定受検人数 延べ1200名以上】</li> <li>【「科学の教室・人文科学の教室」実施件数年間5回以上】</li> <li>【高大連携事業の取組 肯定的評価 80%以上】</li> </ul>	B	B	<p>コンテストの参加人数・受験者人数は延べ人数1095名である。コンテストや検定への参加を担任や教科担当より促した。昨年度と同程度の人数が参加しているが、コンテストの募集停止などによる代替ができていないものがあった。新規開拓をして多くのコンテストに参加できた。</p> <p>人文科学・科学の教室は年間3回取り組みを行った。昨年度より行事が増えているため、日程の調整が難しくなっている。</p> <p>1年生の国際交流会、台湾の学生との交流、丹後万博の準備における市役所や企業とのやりとりを通じた取り組みが7件おこなわれていた。</p> <p>生徒が地域で学ぶ機会については今年度は54件であった。徐々に生徒が活動の場を広げ1人やグループで複数回活動を行っているものが増えた。昨年度は44件であったため増えている。</p> <p>地域活動参加情報発信については、毎学期1回以上行うペースで実施した。</p>
	コミュニケーション能力の向上（コミュニケーションミネ）	<ul style="list-style-type: none"> <li>総合的な探究の時間（いさなご探究）を中心に、卒業生や企業人、留学生や海外の高校生との交流を通して、コミュニケーション能力や国際性を育成する。 【年間授業件数3件以上】</li> </ul>	A	A	
	社会貢献意識の向上（コミュニティミネ）	<ul style="list-style-type: none"> <li>「コミュニティミネ」と題し、生徒が地域で学ぶ機会を積極的に設け、参加を促す。rootsや京都skyセンターと連携を図りながら積極的な活動を行う【60件以上】</li> <li>探究活動を通じて地域活動を行ったり、ホームページで情報発信を行う【地域活動参加発信活動 毎学期1回以上】</li> </ul>	C	B	

中間 最終

評価領域	重点目標	具体的方策	評価		成果と課題
学習指導	主体的学習態度の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>教務部・学年部・生徒指導部等が連携し、保護者の協力を得て、始業5分前登校を徹底させる。</li> <li>【遅刻防止週間遅刻者数：1日平均2人以下】</li> <li>各教科・学年等と連携して、計画的な自主学習を推進する。【自主学習時間：1日平均2時間以上】</li> </ul>	C	B	<p>遅刻は1学期は、1日平均1.7人から2学期は1日平均3.9人に倍増した。遅刻増について効果的な対策を打てなかった。</p> <p>学習時間については、調査前の平日は全体平均で2時間以上であったが、1年生では2時間を下回る状況が見られた。学年が上がるにつれてしっかりと学習時間が確保できている。</p> <p>ICT機器の整備では、授業配信が行いやすいようにタブレット用三脚を各教室に準備した。</p> <p>2学年での1人1台端末の活用を行っている。日常的な授業での活用は80%を超えており、授業内での活用が定着してきた。今後「個別最適な学び」や「協働的な学び」での、さらなる活用が必要である。</p> <p>総合的な探究の時間の取り組みについて各学年部と連携しながら計画立案を行った。</p> <p>研修会・公開授業は、ほぼ予定通り実施することができた。</p>
	教科指導力の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒の学力把握とICT機器を活用した授業手法の研究</li> <li>【ICT機器の環境整備と授業手法の研究・公開】</li> </ul>	C	B	
	総合的な探究の時間における探究的活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>探究活動の取り組み内容を計画・立案し、円滑に進める。</li> <li>探究的な活動についての教職員研修会を設ける。</li> <li>【年間1回以上】</li> <li>探究的な活動に関わる公開授業を実施する。</li> <li>いさなご探究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲそれぞれで公開授業をおこなう。</li> <li>【それぞれの科目年間1回以上】</li> <li>持続的に探究活動に取り組む生徒を育てる。</li> <li>【1～3年生3学期授業アンケートにおいて 探究活動は充実していた 90%以上】</li> </ul>	C	B	

評価領域	重点目標	具体的方策	評価		成果と課題
生徒指導	規範意識の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校外での規範意識の向上に努める。 【携帯電話に関する指導 30名以内】 【特別指導件数 5件以内】</li> <li>・学年部をはじめ、関係分掌との連携を密にし、いじめを含む問題事象の未然防止に努める。 【生徒指導部日より 年間10号以上発行】</li> </ul>	B	B	<p>特別指導の件数は、昨年度よりも大幅に減少したが、ルールを守れなかった生徒もおり、安心安全な学校となるように、学年部となお一層の連携を図り、問題事象の未然防止・規範意識の向上に努める必要がある。</p> <p>新入生の部活動加入率は95.1%、全学年では85.3%と昨年度よりも高くなっている。多くの生徒が部活動に所属し、日々充実した活動を行うことができおり、全国で活躍する部も出ている。このような雰囲気部活動定着率（昨年度94.8%）につながることを期待している。</p> <p>次年度は、完全下校時間を繰り上げることになるが、部活動顧問や学年団などが責任を持って時間が守れるよう指導をする必要がある。</p> <p>生徒会活動では日々のあいさつ運動や峰高祭に向けた取り組みなど様々な活動を積極的に行った。次年度は、委員会活動がさらに活発になるよう取り組みたい。</p> <p>ボランティア活動は、コロナ禍で制限もあったが、案内件数22件、参加者延べ190名、その他校内清掃へは約50人が参加した。</p>
	特別活動の活発化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・部活動の加入率と定着率を向上させるとともに、学習と部活動の両立ができる環境を作る。 【新入生部活動加入率 80%以上】 【部活動定着率93%以上】 【19時30分完全下校の徹底】</li> <li>・生徒会主催の活動を活発化させる。 【学校行事以外の生徒会主催の取組 5つ以上】</li> <li>・ボランティア活動の推進、広報活動、新規連携 【新規連携事業 3件以上】</li> </ul>	B	B	

中間 最終

評価領域	重点目標	具体的方策	評価		成果と課題
進路指導	希望進路の実現	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教務部・学年部・各教科等との連携を強化し、生徒個々の学力・進路希望の実態に即した組織的な指導を行う。 【国公立大学合格者 延べ40名以上】 【就職内定率 100%】 【進路検討会 年間 4回以上】 【進路に関わる担任と生徒の面談 年間 3回以上】</li> </ul>	B	A	<p>新型コロナウイルスの影響もあったが、進路関連の諸行事はおおむね予定通り実施できている。国公立大学の総合型選抜・学校推薦型選抜において13名が合格をし、一般選抜も合わせると合格者は延べ40名を超えた。9月時点での民間企業就職希望者は22名全員が一次応募で内定をいただいた。進路検討会・担任と生徒の面談も計画通りに行うことができた。</p> <p>一部新型コロナウイルスの影響で実施できなかった進路体験活動もあるが、参加者数は延べ100人を超えることができた。</p>
	キャリア教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3年間を見通した系統的かつ体験的・実証的な活動を通して、将来を展望した主体的な行動を促す。 【進路ガイダンス・講演会20回以上】 【進路体験活動参加 延べ100名以上】</li> </ul>	B	A	

評価領域	重点目標	具体的方策	評価			成果と課題
人権教育	生徒および教職員の人権意識の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒が相互に人権を尊重する意識を涵養する。 【生徒の実態に合ったホームルーム人権学習を計画・実施し、適切な事後指導を行う（各学年3回）。】</li> <li>教職員の人権教育を推進する意識の向上を促す。</li> <li>すべての教育活動を通じて生徒の自尊心を高め、他者の人権を尊重する姿勢を育てる。 【&lt;生徒アンケート&gt;「生命や人権を尊重する指導が適切」 肯定率90%】</li> </ul>	B	A	A	当初の年間計画どおり、各学年で人権学習等を実施することができた。また、教職員人権研修についても、3学期に実施することができた。生徒アンケート結果については、「生命や人権を尊重する指導が適切である」項目に対して、肯定率90.2%を達成しており、概ね目標を満たしたものと判断している。

中間 最終

評価領域	重点目標		評価			成果と課題
家庭・地域連携	広報活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>ホームページや「峰高インフォメーション」によって、生徒の活動や学校の取組を幅広くタイムリーに発信する。 【&lt;保護者アンケート&gt;「広報活動が充実」 肯定率80%】</li> </ul>	B	A	A	ホームページ及び「みねこ便り」、「峰高案内」、「峰高だより」をとおして、中学生とその保護者、地域住民等への広報をおこなった。保護者アンケートでも「広報活動が充実」の肯定率が82.3%あり、概ね達成できていると判断する。 PTA活動については、感染症での制限のある中、ドリンク配布やM1出場、生徒会とのコラボ作品制作に取り組んだ。また、成人年齢引き下げに伴う法律研修を実施することができた。
	地域・保護者・PTAとの連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>三者面談、PTA総会、PTA事業、学校祭等のPTA共催・後援行事への積極的な参加を促す。</li> </ul>	B	A		保護者アンケートの「学校の情報が家庭に適切に伝えられている」項目では、現2、3年生保護者から昨年度より+16.6%、+13.3%と大きく改善した。これは、本年度より保護者への連絡アプリを導入した結果であると思われる。次年度も有効に活用する予定である。また、保護者アンケート「家庭と担任や学校との連携」では、昨年度より改善し全体で肯定率81.7%となり、概ね改善されたものと判断する。
		<ul style="list-style-type: none"> <li>ホームページ・ツイッターを活用し、学校の様子をタイムリーに保護者に伝える。 【&lt;保護者アンケート&gt;「家庭と担任や学校との連携」 肯定率75%以上】 【&lt;保護者・生徒アンケート&gt;「学校の情報は家庭に適切に伝えられている」 肯定率90%】</li> </ul>	B	A		

評価領域	重点目標		評価		成果と課題
図書・情報活動	読書活動の充実、図書館利用の促進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員や図書委員などが自身の読書体験や本の紹介を発信する機会を設け、生徒の読書活動を促進する。</li> <li>・図書館を活用した学習活動・特別活動の計画を促進し、活動をサポートする。</li> </ul> <p>【学校図書館が関わる各種コンクール・コンテストへの積極的な参加 各学年10件】</p>	B	B	<p>今年度も毎月の便りの発行、図書委員会による朝読書の取組、夏休みのおすすめ本紹介を行った。人権教育とコラボした特別講習会を今年度初めて実施することができた。また、昨年度は実施できなかった「ビブリオバトル」を1・3年生で実施した。</p> <p>コンクール・コンテストへの参加が2名と少なく、1年に1回読んだ本を深く考察し、自分の考えを表限する機会として、参加を推進していきたい。</p> <p>評価については、アンケート結果が確認できなかったことから、評価はBとした。</p>
	校内LANの適切な運用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校内LANの適切な管理・運用と研修により、情報を安全かつ効果的に活用し教育効果を高める。</li> </ul> <p>【校内LANにおける重大事象の発生が0件】</p>	A	A	

中間 最終

評価領域	重点目標	具体的方策	評価		成果と課題
健康・安全指導	基本的・自立的な生活習慣の確立及び自己管理能力の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒保健委員(美化担当)の学期毎の清掃点検及びクリーンプロジェクトの質的向上</li> <li>・生徒保健委員(保健担当)の生活アンケートの実施と保健委員会だよりの発行</li> </ul>	C	A	<p>クリーンプロジェクトは4回実施し、生徒の意向を反映して音楽を流すなど、清掃に対する意欲を上げる取り組みができた。</p> <p>保健委員による生活アンケートを10月中旬に実施し、11月初旬に全生徒に配布することができた。今回はヤングケアラーに関する質問事項を増やすことができた。</p> <p>心臓病やアレルギーのある生徒に対して、現在の状況や緊急時の対処について確認できた。</p> <p>朝の健康観察入力は、毎日30～50名の未入力者がおり、保健委員が入力を促す放送をしたり、養護教諭が昇降口付近で声掛けをしたりなどしたが、コロナ感染予防に対する意識の低下もあり、目標達成に届かなかった。</p> <p>スクールカウンセラーの来校日が増え、教育相談の充実が図れた。また、まなび生活アドバイザー(SSW)とも連携を進め、生徒の状況に応じて相談することができた。教育相談会議を定例5回、臨時会議を4回開催し、生徒個々人の課題に組織的に対処することができた。</p>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・健康課題のある生徒の相談活動の充実</li> </ul> <p>【年度初めに面談】</p>	B	B	
	感染症予防に対する意識向上と感染予防対策の継続	<ul style="list-style-type: none"> <li>・Forms(アンケートツール)活用による健康状態の把握</li> </ul> <p>【日々の未入力者20人以下】</p>	C	B	
	メンタルヘルスの問題を早期に支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スクールカウンセラーを活用し継続した教育相談に取り組む</li> </ul> <p>【定例教育相談会議 年6回】</p>	B	A	
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・心身の不調の見える生徒に対し、迅速に対応し、継続して健康相談に取り組む</li> </ul> <p>【保健部会内月2回】</p>	B	A	

評価領域	重点目標	具体的方策	評価		成果と課題
特色ある専門 学科	地域連携のさらなる拡充	<ul style="list-style-type: none"> <li>デュアルシステム、インターンシップ、企業見学により職業指導を充実させ、地域に根差した人材育成に繋げる。</li> <li>【2年生インターンシップ全員参加】</li> <li>【3年選択授業対象者デュアルシステム全員参加】</li> <li>【事前・事後指導 5時間以上】</li> <li>【地元就職 5名以上】</li> </ul>	B	A	<p>2年生のインターンシップは、予定通り5日間の実施ができた。3名が体調不良により1日欠席したが、ほぼ全員が全日程での体験を完了し、職業観の育成を行うことができた。</p> <p>デュアルシステムは10時間以上の事前・事後指導、就業体験全8回を無事完了した。体調不良による欠席が2名あった以外(1日)、ほぼ全員が全日程で体験し、職業観を高めることができた。</p>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>「京都府織物・機械金属振興センター」、「京都職業能力開発短期大学校」等の近隣で利用可能な職業訓練機関での実習を充実させる。</li> <li>【40時間以上】</li> </ul>	B	B	<p>地元就職者は8名となり、目標を大きく上回った。</p> <p>「京都府織物・機械金属振興センター」での実習は当初の予定通り実施が完了し、計48時間の実習時間を確保できた。</p>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>小中学校向けの出前授業や校外イベント等で学科の活動を展示発表する。</li> <li>【5件以上】</li> </ul>	B	A	<p>課題研究で実施した出前授業は、目標を上回る8校での実施が完了した。</p>

中間 最終

<p>学校運営協議会 による評価</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 中間評価では、学校の自己評価は厳しいと思えたが、最終評価では適切に評価できている。</li> <li>・ 新型コロナウイルス感染症による活動制限等もある中、様々な工夫をしながら、計画を進められてきた。次年度は、活動制限なくできるはずであり、生徒が社会や地域とつながり、力を発揮できるような取組を積極的に進めてほしい。</li> <li>・ 教員の心身の健康保持や人材確保の観点から、時間外勤務時間を縮減できるように、さらに働き方改革を進めるべきである。</li> <li>・ 府立学校の中でも、時間外勤務時間が多い。次年度より下校時刻を繰り上げるとの報告があったが、これは、教員の働き方改革だけでなく、生徒の心身の健康保持や学習時間の確保にもつながる。</li> <li>・ 下校時刻の繰り上げにより、部活動の活動時間が減るが、練習内容の工夫や効率化を図り、今まで以上の成果を期待したい。</li> <li>・ 昨年度の課題にあがった保護者への連絡や連携について、連絡アプリを導入されたのはいへん成果があったと感じる。</li> <li>・ 不登校傾向の生徒や遅刻者の増加などは、新型コロナウイルス感染症による欠席の取り扱いなどの影響もあると思われる。家庭環境などの影響もあり、学校の対応だけでは難しい場合もある。積極的に外部機関との連携や外部人材の活用をしていくべきである。</li> <li>・ 校則については、様々な考え方があり、非常に難しい問題である。HPへの校則の掲載は、社会の常識の変化に応じて、校則を見直す良い機会である。規則を守らせるだけでなく、生徒自身が自分で判断できるような人間性を育てていただきたい。</li> <li>・ 次年度は全生徒がiPadを持つことになるため、より活用を進め個別最適化の学習を積極的に取り入れていただきたい。</li> </ul>
--------------------------	--

<p>次年度に向けた改善 の方向性</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>①各領域の重点目標及び具体的方策を焦点化する。</li> <li>②下校時刻の繰り上げに伴い、諸活動の時間的な効率化を図る。</li> <li>③より安心、安全な学校にするための分掌間連携を強化をする。</li> <li>④人権意識の高揚ために計画的な学習[研修]を推進する。</li> <li>⑤学校の取組を内外へ積極的な発信をおこなう。</li> <li>⑥外部の人や組織と連携した教育をさらに発展させ推進する。</li> <li>⑦検定の合格や希望進路の実現に向けて主体的に学習ができる生徒を育成する指導を充実させる。</li> <li>⑧研究指定等を活かした授業実践の推進する。</li> </ol>
---------------------------	---